

栃木県社会福祉士会会報



〒320-8508 宇都宮市若草1-10-6 発行 一般社団法人栃木県社会福祉士会
TEL 028-600-1725 発行責任者 檜山 光治
FAX 028-600-1730 編集責任者 長 秀紀
ホームページアドレス <http://www.tochigi-csw.org/>

43号

発行日 平成27年1月20日

羅針盤



「福祉を学ぶ学生の今」

国際医療福祉大学 准教授 大石 剛 史
栃木県社会福祉士会 理事



羅針盤	1
トピック（学生へのアンケート）	2～3
福祉士おもしろいだけリレー	4
会長の視点	4
授産製品・店舗紹介	5
共同事務所 6 団体通信	6
福祉士会通信	7～8
編集後記	8



国際医療福祉大学に奉職して、間もなく丸15年となる。定点観測的に、福祉を学ぶ学生と関わってきた立場から、福祉を学ぶ学生の今について、思うところを述べてみたい。

まず、福祉を学ぶということについての学生の動機づけが変化していると感じる。

私は1994年に母校である福祉系の大学に入学した。当時は高齢社会への問題意識が高まってきたとはいえ、福祉系の大学に進むものはまだそれほど多くはなかった。福祉を学ぼうとする者は、ある程度明確な問題意識を持ち、福祉系の大学に進学していたように思う。私はそれほど明確な問題意識を持って母校を選んだわけではなかったのだが、大学入学後、きわめて高い問題意識を持って入学してきた友人たちと接し、非常に驚いたことを覚えている。しかし、超高齢社会の到来とともに、福祉を学ぶことは、誤解を恐れずに言えば「普通」のこととなった。その結果、入学時にそれほど高い福祉への情熱や意識を持たない学生たちが年々増えていると感じる。

第二に、「いまどきの学生気質」として、福祉職には重要な、異質な他者と協働する力が年々落ちてきているように感じる。私は、国際医療福祉大学に設置されたボランティアセンター長としても学生たちと関わっているが、近年ボランティアサークル等の運営に四苦八苦する学生が多い。今の若い人たちのグループや集団を運営する能力が落ちてきているからだと考えられる。今の若い世代は「デジタルネイティブ」世代と呼ばれ、生まれた時からネットに接し、様々な人間関係のやり取りも、ネットに大きく依存している。ネット上での情報のやり取りのスキルは我々世代より長けているが、面と向かった「リアル」な人間関係のやり取りは苦手である。よく、ボランティアサークルのリーダーの学生から、「ミーティングに人が来ない」という相談がある。「どうやって声をかけたの？」と聞くと、「LINEでは全員に連絡したんですけど…」という返事。情報ツールが便利になり、「軽く」情報伝達が出来分、おそらくそこで交わされた約束もそれほど「重い」ものとは受け止めないのだろう。サークル運営にとって大切な「ミーティング」を軽い気持ちで欠席する学生が最近特に多いと感じている。

これらのことから、福祉を学ぶ学生の現在の課題をいくつか指摘できるだろう。一つは福祉を学ぼうとする動機づけの弱さである。現代の複雑化した福祉問題の解決を図るためには、本来様々なことを貪欲に学び、創造的に福祉支援のあり方を生み出していけるような人材が必要になる。福祉が「普通」なものになり、福祉に関心を持つ若者が増えることは良いことだが、「仕事」を覚えるかのように、最低限のことしか学ばないような学生が増えるとすれば、あまり良いこととは言えない。

二つは、福祉援助に欠かせない、異質な他者と関わる力をどうやって身につけてもらうか、という課題である。特にこれからの福祉は、地域

の中での他職種連携、あるいはクライアント自身や、地域住民とも協働した支援の展開を、創造的に行うことができる人材がますます必要になる。「デジタル世代」の学生たちに、この力をどのように身に付けてもらうのか。

このような課題に対し、私自身は、学生にできるだけ、在学中、ボランティア活動等の社会体験を多く積んでもらいたいと考えている。それも一人でやるボランティアではなく、多くの仲間と一緒に苦労しながら行うボランティア活動が良いと考えている。私の経験上、あるいは研究上の知見でも、ボランティア活動を行い、なおかつ、ボランティアサークル等のリーダーを担うような経験をした学生は、主体的に物事を考える力、多様な他者と協力して活動を前に展開する力を身につけている。

また、養成カリキュラムの中では、実習の重要性がますます高まると考えられる。実習先で、自分なりに創意工夫を凝らして良い実習を行うことができた学生は、見違えるような成長を見せることがある。ここで指摘したいのは、このような実習は、学生だけの頑張りだけでは実現しないということである。大学と現場、地域、あるいは当事者も含め、学生たちのより良い成長を目指した実習教育プログラムの探求が今後重要ではないかと思う。

少子高齢化の今、支援を必要とする方は増える一方で、それを支える若者の数は減少の一途である。貴重な人材を確保するためにも、「いまどきの若者たち」を良く知り、彼らに対する効果的な養成プログラムを考えることは、社会福祉業界全体にとって、極めて重要な課題となっているのではないだろうか。

トピック

「社会福祉士養成校の学生のみなさんに聞きました！ ～福祉への思い、将来の希望～」

今回は、県内の社会福祉士養成校4校にご協力いただき、学生の皆様に以下の内容でアンケートを実施させていただいた結果を掲載します。アンケートの結果に対して、広報委員がそれぞれコメントさせていただきました。皆様の職場において、将来を担う学生の理解を促す一端を担うことができれば幸いです。

1. 目的

社会福祉士養成課程の学生がどのようなことを考えて福祉を学び、また将来についてどのように考えているかの意識を調査・集計することにより、現在福祉を学ぶ学生の傾向の一端が把握できる。さらにその結果を会報に掲載して関係機関に発信する

ことにより、将来、福祉等の現場を担う学生の傾向の理解を実践現場の方々に促すことができる。

2. 対象者

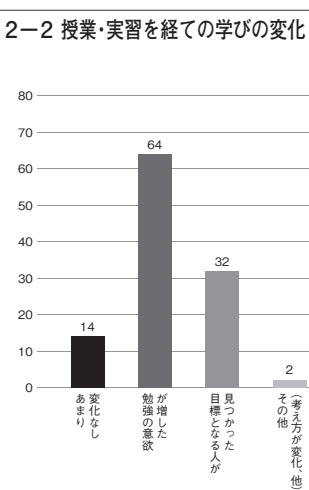
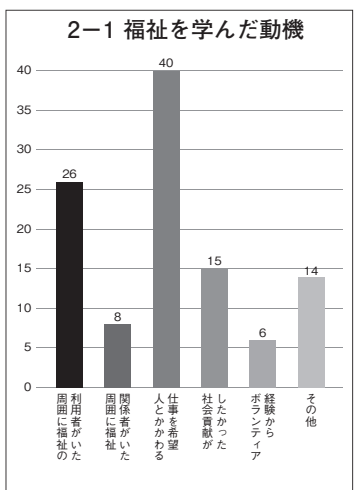
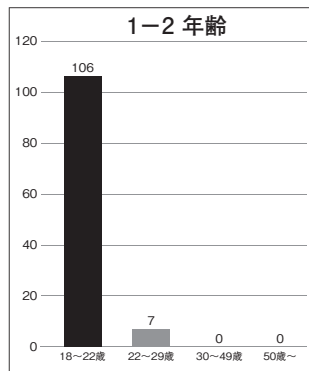
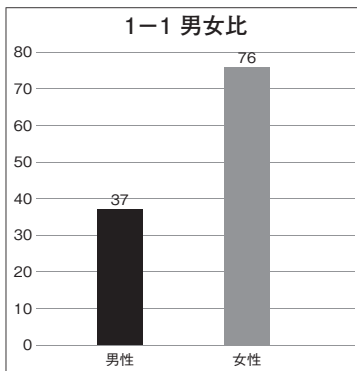
国際医療福祉大学（社会福祉専攻）、宇都宮短期大学（社会福祉専攻）、佐野短期大学（社会福祉フィールド）、マロニエ医療福祉専門学校（社会福祉専攻）の卒業年次の学生113名

3. 実施方法

4校の社会福祉士の担当の先生方にご協力いただき、無記名でアンケート用紙に筆記での回答。

4. アンケート期間 平成26年11月1日（土）～11月25日（火）

福祉を学ぶ学生への意識調査 対象113名(回収率100%)



アンケート全体のコメント

多くの選択肢がある中で、動機は色々ありますが、「福祉」を学ぶことを選んでもらえたことは、ありがたく、心強く思います。他の職種に比べ、福祉の仕事は「3K」と言われ、身体的・精神的（収入的）にも大変な仕事だと思われていますが、これからの少子高齢化社会において「福祉」の担う役割は今以上により重要になると思います。

あえて、このような仕事を目指そうとしている学生の皆さんには是非とも頑張ってくださいと思います。福祉を学ぶ学生の皆さんは、たとえて言うなら「福祉の種」から「芽」が出たばかりの状態です。これからその「芽」が育つも枯れるも「環境」が大変重要だと思います。その環境を作るのは、今、福祉に従事している我々です。次世代がより良い社会で暮らせるようになるためにも、今携わっている業務を精一杯行い、次に繋がるような良い影響を与えられる仕事をしたいと思いました。

（赤坂）

2-1

今回「福祉を学んだ動機」について調査を行い、トップで3割を占めたのが「人とかわかる仕事を希望した」でした。また、「周囲に福祉の利用者や関係者がいた」を合わせた値が同程度でした。身近に「福祉」を学ぶきっかけになっていることが分かります。その他で挙げられているニュースや周囲からの勧めなどがきっかけとなっていることも、今の傾向ではないかと思われました。

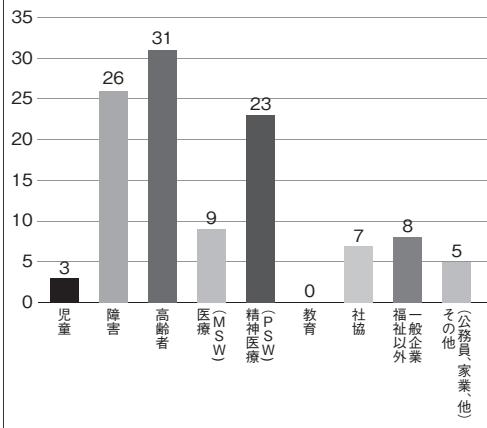
（高橋）

2-2

“勉強の意欲が増した”と答えた方が半数以上いてとてもうれしく思います。また、“目標となる人が見つかった”とする方も一定数あったのは、よく見ているのだと思い身が引き締まる思いです。しかし、“あまり変化がなかった”とする意見も14あり、実習においては、理念・理論がいかに位置づいているかをしっかり伝えて行かないといけなと考えさせられました。

（長）

2-3 卒業後の進路(希望を含む)



2-1 その他の内容

- ・世の中で求められているから
- ・児童虐待のニュースをみて
- ・通った高校から近く、何か資格を取ろうと思ったから
- ・やりがいのある仕事だと感じたから
- ・今後必要になる知識であると思ったから
- ・家族に勧められて
- ・人の役に立てる仕事をしたかった
- ・親の方針
- ・本命に受からず福祉専攻で合格したから

2-3

高齢者分野が31名、障害26名、精神医療(PSW)23名という順に希望されている方が多く、児童分野は就職先が限られてしまうためか、3名というのが意外でした。求人が多い高齢者分野だけでなくPSWやMSWなど病院関係を希望されている方が多くいることが結果から見えてきました。

また、福祉以外の一般企業を希望されている方が8名ということで、入学前から資格取得のみを目的で入学されたのか、それとも入学後に進路を変更されたのか気になりました。(三枝)

2-4

複数回答可ということで、今回は社会福祉士を目指している学生さんを対象に回答をいただきましたが、あわせて精神保健福祉士や介護支援専門員、介護福祉士とより目指す進路での専門的な資格を目指していることが伺えます。さらに、卒業後も再度新しい学科や学校に入学する必要のある、臨床心理士や看護師等の資格を目指す志の高い方もいるようです。資格取得がゴールではありませんが、希望する進路で活躍するために是非、頑張ってくださいと思います。

(三枝)

2-5

感想には、良いイメージや理想的な姿が書かれていたのが印象的でした。相手の立場に立って支援できる存在としての意見が多かったように思います。現場実習やボランティアなどで、社会福祉士がどのような課題を抱えているかも聞いていただけると、より具体的な福祉士像がイメージできるのではないかと思います。学生の皆様が、それぞれが思い描いた社会福祉士になれるよう、現場での実践を重ねて欲しいと思いました。

(原)

2-5 あなたが思い描く社会福祉士とは (一部紹介)

- ・心に寄り添い、その人の立場に立ち支援を行い、そして常に笑顔を保ち、信頼される社会福祉士
- ・クライアントのニーズに合わせて、その人らしい生活を支援し、信頼されるのが社会福祉士だと思う
- ・利用される方に合わせた関わりができ、優しく温かみのある人が自分の思い描く社会福祉士
- ・受容や共感を大切にし、相手を尊重することを大切にする専門職
- ・利用者の方の利益を最優先にした支援ができて、同時に一緒に働く専門職と連携が取れる社会福祉士
- ・2回の実習を終えて、様々な社会福祉士があり、その中でも相手に寄り添える人になりたいと思えるようになった
- ・様々な福祉の分野で幅広い知識を生かしながら、利用者の拠り所となる存在
- ・人と人と人と社会をつなげる架け橋のような存在
- ・利用者(クライアント)に寄り添った支援を行うことができる社会福祉士

協力：国際医療福祉大学、宇都宮短期大学、佐野短期大学、マロニエ医療福祉専門学校の社会福祉士の教員の方々および113名の卒年度の学生の皆様

1-1男女比

男性	女性
37	76

1-2年齢層

18～22歳	22～29歳	30～49歳	50歳～
106	7	0	0

2-1福祉を学んだ動機

周囲に福祉の利用者がいた	周囲に福祉関係者がいた	人とかわる仕事を希望	社会貢献がしたかった	ボランティア経験から	その他
26	8	40	15	6	14

2-2授業・実習を経ての学びの変化

あまり変化なし	勉強の意欲が増した	目標となる人が見つかった	その他(考え方が変化、他)
14	64	32	2

2-3卒業後の進路

児童	障害	高齢者	医療(MSW)	精神医療(PSW)	教育	社協	福祉以外一般企業	その他(公務員、家業、他)
3	26	31	9	23	0	7	8	5

2-4将来取得したい資格(複数回答可)

社会福祉士	精神保健福祉士	介護福祉士	介護支援専門員	臨床心理士	教職員免許	その他(看護師他)
71	39	17	23	4	2	4

福祉士 おもいのたけリレー

県内で活躍する社会福祉士が、実践への「おもいのたけ」を語っていくコーナーです。このコーナーは、リレー方式で次の社会福祉士につないで掲載していきます。
掲載内容：①氏名(ひらがな)、②所属、③趣味、④実践へのおもいのたけ

- ①渡邊 太樹 (わたなべ たいき)
- ②栃木県障害者相談支援協働コーディネーター (社会福祉法人同愛会より出向)
- ③美味しい日本酒を呑むこと (好きな日本酒 石川県の天狗舞) 親子マラソン



- ④私が今従事している協働コーディネーターという仕事は、一言で表すと『地域の障害児者が安心して生活できる相談支援体制づくりの裏方』です。個別のケース支援や勉強会、協議会といった機会において、障害者相談支援専門員や行政担当者の方々と協働しながら活動をさせていただいております。しかし、現状では、今年度までに障害

福祉サービスを利用するすべての障害児者に対して『サービス等利用計画』を作成しなければならないとされており、いかに計画作成を間に合わせるかという課題に追われてしまい、あるべき相談支援体制づくりの検討を丁寧に進められていない地域が多いように感じます。本来のサービス等利用計画の意義は、障害を持つ方々が住み慣れた地域で自分らしく生活していくための指標となるライフプランであるはず。だからこそ今相談支援体制を充実させ、夢や希望が溢れる素敵なライフプランを街じゅうに広げていくことが必要なのではないでしょうか。

次は、宇都宮市障がい者生活支援センター(子ども発達センター)の手塚希さんにバトンを繋ぎます。

会長の視点

最近の施策の動向から考える

栃木県社会福祉士会会長 檜山 光治



最近、ビッグデータの言葉を聴く機会が多く、分析・加工等により見える化を図り、人々の合意と納得を得ながら新たな方向性や注意喚起等に威力を発揮している。物象には適しているが、福祉の世界では難しいようである。福祉でもエビデンスが言われて久しいが、成果物を見聞したことが少ない。介護保険制度の総合事業や生活困窮者自立支援制度等において地域づくりが今後の方向性(これしか方法がないとも思われる。)として示され、地方を変える起爆剤となり得る施策でもある。住民主体を図るための合意形成において見える化を図ることが必須と思われる。

ソーシャルワークの世界において、私達に意識を伝える手段を持たない障害者等の支援は難しい。面接をする度に多様な行為・行動により意志表示をするが、その真意が理解できない、何を求めているのか、なぜパニックになっているのか、必死になって真意を求める。

障害者総合支援法第42条の障害福祉サービス事業者等の責務に「障害者の意思決定の支援に配慮」という一文が記載されているが、定義は障害者部会等で検討が始まった。

私達は日常、経験及び情報(知識等)の理解等により意思を表出している。障害者の意思決定支援には、この一連のプロセス一つ一つに何らかの支援が求められると思われる。

事業所の個別支援計画と相談支援事業所のサービス利用計画は、フェーズは異なるが一連の物として捉えなければならない根拠でもある。

2015年4月から生活困窮者自立支援法が施行されるが、ソーシャルワーカー(社会福祉士等)が最も特色を発揮できる部門と思われる。ソーシャルワークを構

成する要素は、大きく4つに整理(①利用者(クライアント)システム、②ニーズ、③ソーシャルワーカー、④社会資源))することができる。利用者を個人として捉え、寄り添う支援を実施すると共に家族や近隣住民、地域のサービス提供機関などへの働きかけを実施するなど、「ケースワークと地域づくり」が法制度の目標となっている。中核をなす自立相談支援員は、誰もが認める普遍的な性質を大事にしながら、ソーシャルワークの援助原理や援助の目標、目的に即して判断する、ソーシャルワーカーとして職能集団の中で共有している価値が基盤とすることが必要である。

生活困窮者の方は複合的な課題を抱えているので、単に一つの支援で終了することはあり得ないので、自治体、雇用の分野、住宅の分野等様々なネットワークを構築しなければならないので、主任相談員の役割が重要である。主任相談員の活動がスーパービジョンを根付かせるものと考えられる。

最後に、個人活動場面において、ナラティブ・ソーシャルワーク(傾聴技法と何が異なるのか等の批判もある。)や認知行動療法等も用いて活動している。無知の姿勢を取りながら、利用者の物語を丁寧に紡ぐことや、人はその時々で考え方、受け取り方が異なり、気持ちや行動はこのことに影響を受けるので、その対応手法である。

人が人を支援する術は、見える化が困難なほど多様、多方面であり、現場の実践を通して確立されるものである。個々の事例を紐解きながら表出されない事柄は、既存の枠組みとは異なるフェーズでどのように理解すればいいのかと自問自答しながら探求しなければと思っている。

授産製品・店舗紹介

このコーナーでは、障害のある方々が作る授産製品や販売する店舗をご紹介します。

社会福祉法人 愛光園 一步

電話：0284-91-1211、FAX：0284-91-1221

一步では地域で暮らす障がいをお持ちの方の就労支援として、パンや手作りクッキー・マドレーヌ・マフィン等の製造販売を行っております。平成16年に小さなプレハブで始まったこのクッキー工房は、年々売り上げを伸ばし、現在は足利市の住宅街にお店を構えるほどになりました。

1番人気のパンはアップルパイ（120円）で、外はサクサク、中はほのかに甘いリンゴがたっぷりと入っております。また、クッキー（1袋100円）はかわいい動物の形のものや季節の折々のデザインのものなど、10種類以上の品を取り揃えてございます。そのため、お土産に利用を頂いたり、クリスマスや運動会の時期には、各学校様や保育所様から多数の注文を頂いております。他にも足利市のゆるキャラ、「たかうじくん」のクッキーも製造しており、人気があります。

お店の中に入ると、パンやクッキーの甘く、香ばしい香りが店内に広がります。店内からはガラス越しに、障がいを待った方がパンやクッキーを丁寧に製造しているところをご覧いただくことができます。力いっぱい生地を作る方、手先がとても器用で、シール貼りやクッキーの型抜きをととてもきれいに仕上げるのがで



きる方、形を崩さず袋詰めする方など、和やかな雰囲気で作業をしております。また、外部での販売では、地域の方に喜んで買っていただいたり、励まして頂いたりすることで、もともとはあまり社交的でなかった方も、今では我先にと販売に行きたがるようになりました。そのような皆さまの様子をみていると、本来支援をしなければならないスタッフ側が、逆に勇気づけられているようで、より活力をいただきながら日々仕事に精進しております。

現在は店内の他、足利のハートショップや足利日赤様、佐野市役所様（毎週木曜）などで販売をしております。贈呈用のギフトもごございますので、是非お問い合わせを頂ければと存じます。



販売場所

一步（栃木県足利市大久保町953-26）
ハートショップ in 足利市役所
ハートショップ in アピタ
佐野市役所

麵むすび なすび食堂

社会福祉法人 なすびの里 ゆうの家事業所
栃木市万町7-3
電話・FAX 0282-23-1010
11:00～15:30（LO15:00）
水曜定休

栃木市役所の向かいにある風情ある、お食事処なすび食堂を紹介します。

古民家のような懐かしい雰囲気の店内で、栃木市のソウルフードのモロ（サメ）のフライ



やなすびの里自家製のうどんなどが味わえます。なすびの里の利用者さんがスタッフとして働いており、厨房での盛付けやうどん茹でなどを担当しています。また、明るい笑顔での接客には心癒されます。

今回、栃木定食（モロフライ）をいただきました。鶏肉のような



味わいが美味で、うどんもコシがあり、ご飯と副菜とフルーツがついていて大満足なセットでした。他にも豚の生姜焼きのなすび定食やうどんメニューも充実しています。

店長さんをはじめ、サポートをされる方々の工夫や努力も大きいと思いますが、社会で生き生きと働く皆さんの姿が印象的でした。常連さんとの自然な会話も、まさに麵むすびというお店の役割を果たしているように感じました。



メニュー（他にも色々あります）

栃木定食（モロフライ）……………980円
なすび定食（豚のしょうが焼き）980円
野菜天盛りうどん……………680円
天ざるうどん……………850円
黒みつかんてん（緑茶付き）……350円

共同事務所 6団体通信

ソーシャルケアサービス共同事務所に所属している各団体の活動を紹介する掲示板です。

● 栃木県医療社会事業協会

会長 小嶋 章吾

創立60周年に向けて◆2014年は、患者会、専門職団体、保健福祉行政との連携強化をいっそう拡げてきた1年でした。◆看護協会、ケアマネジャー協会とともに進めてきた「入退院共通連携シート作成委員会」での成果を、近くお披露目することになりました。◆5月の学会では、シンポジウム「いのちを語る～当事者とのパートナーシップを築くために、私達が出来る

こと」を開催し、がん患者と家族の会、遷延性意識障害者家族の会、筋痛性脳脊髄炎の会より代表をお招き、相互理解と社会啓発を図りました。◆8月からは、宇都宮市退院支援検討部に委員として参画しています。◆2015年8月1日(土)午後、ホテルニューイタヤにて、創立60周年記念祝賀会を開催します。今後ともご支援の程宜しくお願い致します。

● 栃木県介護福祉士会

会長 岩原 真

平成26年に計画した主な事業は予定通り開催することが出来、多くの介護現場の皆さんに参加していただきました。その度、会への入会案内を行ってまいりましたが、中々入会までにつながるものが少なかったことが反省のひとつです。

まだ、2月に会員を中心とした県北ブロックと県央ブロックの研修会があります。

◆介護技術スキルアップ研修

平成27年2月21日(土) 13:30～16:30

国際医療福祉大学介護実習室

◆認知症の方に寄り添うために&職業人としてのマナー

平成27年2月8日(日) 13:30～16:45

とちぎ福祉プラザ 404会議室

◆平成27年度介護福祉士会総会

平成27年5月17日(日) 予定

平成27年度は、介護報酬の改定が行われ、地域包括ケアシステムへと踏み出すこととなります。地域で暮らす障害者や高齢者等が安心して生活できるようより身近な生活支援の「専門職」としての介護福祉士は、重要な役割を担っていると考えます。これからも、共同事務所6団体の皆さんと連携をとっていきますので、よろしくお願い致します。

● 栃木県ホームヘルパー協議会

会長 仁平 明美

介護保険が、訪問介護が大きく変わろうとしている。一部の家事介護が市町村に移る、簡易な資格研修取得者が対応に当たると聞く。現場感覚からすれば、その時の関わり方が予防や自立生活への意識を深め大事な時期だと思われる。

栃ホ協の来年度の研修は「自立支援とは…」の視点を介護技術や生活支援に入れた研修を考えていきたい。関東ブロック大会も控えている、皆さんの意見も聞かせていただきたい。

● 栃木県精神保健福祉士会

会長 高井 正己

福島県いわき市を中心とした視察研修を11月9日(日)に実施致しました。生憎の空模様にも関わらず、会員15名が参加し最後まで話題の尽きない1日となりました。午前中は、福島県精神保健福祉士会12名の方々とグループワーク(交流会)を行いました。いわき市等における震災当時からの現状までの状況を伺いつつ、当時の混乱ぶり、その状況下での支援体制づくり、日頃からの備え等、多くのことを学ぶことができました。今後県協会として、災害時の支援体制を策定していきたいと考えております。

午後は広野・楢葉・富岡各町の状況を視察致しました。多くの家屋が震災当時のままであり、時間が止まっている印象を受けました。いかに放射能の影響が強大であるかを肌で感じる事ができました。視察中、除染袋が沢山並んでいる風景に強い違和感を覚えました。

未だに自宅に戻れない方々、元の生活には程遠い方々が沢山いらっしゃいます。また「こころのケアチーム」の一員として被災地で活動している同志もいます。この状況を風化させないためにも、微力ですが継続した支援を行っていききたいと思います。

栃木県社会福祉士会のブロック会・委員会・PT(プロジェクトチーム)の活動を紹介する掲示板です。

福祉士会通信

*社会福祉士の皆さま、日頃の実践の質を高めるため、福祉士同士の輪をつくるため、是非会活動に参加しましょう。
福祉士以外の方におかれましては、ブロック会等で研修会等を企画しております。是非ご参加ください。
お問い合わせは、栃木県社会福祉士会までお願いします。

県北ブロック、県南ブロック、広報委員会、社会福祉評価委員会、生涯研修センター(委員会)、権利擁護センターぱあとなあとしぎ、TSCS・調査研究委員会、実習指導者養成PT、としぎSSW研究会(PT)

県北ブロック

福原 健治

今年度9月以降の活動は、9月20日に那須塩原市(ハロープラザ)において、NPO法人風の詩 社会福祉士事務所「風のささやき」代表 永島 徹 氏を招いて、独立型社会福祉士の役割や活動内容について実践例を通してお話をいただき、ソーシャルワーカーとしての精神論や現状の課題について共通認識させていただきました。

第二部の懇親会では、たかはらオートキャンプ場にて、BBQを行いました。美味しいお肉やビールより、なぜかいい大人がUNOゲームで童心に返り盛り上がりました。その後も何人かはコテージに泊り夜遅くまで騒いでしまいましたが、Jブロック長は、朝5時頃からバットの素振りを始めソフトボールの試合に爽やかに出掛けて行きました。



BBQの様子

今年度は、あまり活発な活動はできませんでしたが、交流会や研修会を通じて新たな方との横の繋がりが出来て、連携を強化することが出来ました。

県南ブロック

藤見 雅嗣

今年度も残り1回となりますが、足利愛光園サンリットをお借りして3月に行う予定です。内容等も検討中ですので、決まり次第、ホームページでお知らせします。

2月22日に行われる「ぱあとなあ」共催の企画にブロック会で協力していく予定です。参加する方の期待に少しでも応えられるよう、様々な工夫を取り入れな

がら活動を広げていきたいと思っています。

広報委員会

長 秀紀

今回の会報43号は、県内の福祉士養成校のご協力を賜り、学生の皆様の意識調査を行いました。委員会は、10月9日、12月22日にいずれも佐野市内で行い、今回の会報内容の検討と次年度の会報内容についての意見交換を行いました。次回は3月に委員会を開催予定となっております。委員会は両毛地区で行っていますが、遠方の方でも参画できるように郵送や電子メールなどを活用していきたいと思っています。広報に関心ある方、広報を通してネットワークを広げたいと考えている方など、引き続き委員募集中です。

社会福祉評価委員会

小野 二千光

当委員会は現在17名により第三者評価と外部評価を行っています。

児童養護施設等の社会的養護関係施設について前年度より第三者による受審が義務づけられました。義務化に伴い当委員会は、評価技能向上のために外部での研修や関係施設の見学研修及び委員会での話し合い等実施し、受審要請に対応しています。

上期は第三者評価として社会的養護施設を含む受任事業所の評価活動及びフォローと、外部評価に関する受任事業所の評価日程や担当者を決め、実施計画に基づく活動を行いました。

10月以降はグループによる実践活動が中心となりますが、委員会を月1回開催して計画の確認と実績のフォロー、及び課題の解決に向けた話し合いをしています。

1～3月も実施計画を遂行し、前年度実績を上回る公表に向けて活動していきます。

今後の評価(調査)活動をより充実したものにするため、委員の拡充を考えております。つきましては調査活動を一緒にやってみたいと思う方は是非委員又は事務局まで声かけをお願いします。

生涯研修センター（研修委員会、基礎研修Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、養成支援委員会） **松永 千恵子**

生涯研修センターでは、平成26年度、任意の研修を3つ（『オレンジプランはこうなっている！』6月、『高齢者の貧困』12月、『発達障害者の就労支援』）、基礎研修Ⅰ・Ⅱ、社会福祉士模擬試験（10月）を予定し、順調に進んでいるところです。基礎研修Ⅰ・Ⅱは生涯研修制度の研修となっていますが、任意の研修は会員の皆様の関心のある事柄、そして必要となる知識、情報、技術に焦点を絞り研修を行っております。来年度は、いよいよ基礎研修Ⅲも始まります。気楽に是非、研修にご参加ください。

権利擁護センターぱあとなあとちぎ **小林恵美子**

ぱあとなあとちぎは、運営委員会、フォローアップ部会、報告書部会、啓発部会にて活動しています。

運営委員会は毎月第二土曜日に、フォローアップ部会は委員会内研修会を県内3地域にて実施しました。報告書部会は年2回の定期報告書のチェックを行い、啓発部会は外部に向けた研修会を実施しています。その他、県社協主催成年後見支援員養成講座講師や法人後見運営委員会委員（市社協主催）を派遣し、各地で活動しています。また、リーガルサポートとちぎ、精神保健福祉士会との合同研修会を企画（2月予定）し、他団体との連携強化も図り楽しく活動しています。（4～11月実績…名簿登録者54名、後見人等受任依頼件数16件、電話相談対応件数16件）。

TSCS・調査研究委員会 **大石 剛史**

「とちぎソーシャルケア従事者協議会では、2月21日（土）に、日本地域福祉学会関東甲信越静岡ブロック研究集会と同時開催で、第11回とちぎソーシャルケア学会を実施いたします。現在、「平成26年度とちぎ地域福祉実践研究セミナー」の名称で、参加者を募集中。午前中は基調講演、午後は二つの分科会。第1分科会は来年度から始まる生活困窮者自立支援制度について各現場からの連続報告、第2分科会は多職種で地域包括ケアについて考える分科会です。詳細は後日送付の開催要項等をご確認ください！」

実習指導者養成PT **蛭田 真弓**

当プロジェクトチームは、社会福祉士を養成する実習指導者になるための講習会、「社会福祉士実習指導者講習会」の実施に向け、活動しています。本会主催の講習会を受講された皆様からは、実習プログラムの作成やスーパービジョンについての理解が深まったな

どといった声をいただき、それらを励みに、今後も継続して社会福祉士実習を受け入れる施設・機関の拡充を図りたいと考えています。

社会福祉士の後継者育成、施設・機関の実習指導体制の整備・充実の観点からも、大変意義のある講習会ですので、当プロジェクトチームの活動に興味・関心のある方は、ぜひ事務局までお声かけください。

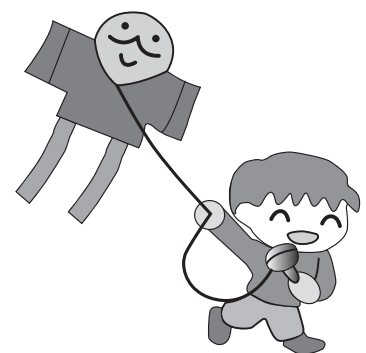
とちぎスクールソーシャルワーク研究会（PT）

土屋 佳子

今年度、本研究会では計4回の講座を企画（当初は計6回を予定・のちに変更）。①6／8「スクールソーシャルワーカーの仕事と役割」②9／14「スクールソーシャルワークと生活困窮者自立支援制度（シンポジウム）」には、各回とも70名を超える参加者がありました。今後は③1／11「高校におけるスクールソーシャルワーク活動について」④2／8「専門職のコラボレーション（車座座談会）」を開催する予定です。



研修会の様子



編集後記

箱根駅伝では、青山学院大学が総合優勝しましたね。フレッシュさがグリーンのユニホームとともに満ち溢れていました。

今回、学生さんへのアンケートを実施させていただき、フレッシュな気持ちになりました。ご協力ありがとうございました。

（長）